

光受寺通信

NO.182

R6・3・1

発行元

発行

光受



今年が喜寿を迎える。人生百年時代とはいえ、よくこゝまで生きてこられたなあとしみじみと思う。もちろん体と頭は年相応に衰退してきていることは事実だが、気持ちはまだまだと強がって生きている。

しかしながら人生最期の日は必ずやってくる。得も言われぬ恐怖心に「死にたくない」と叫びたくもなるが、ならば「あなたに永遠の命を与えよう」と言われてみても、これまた困るのである。生きることは「苦難」の連続だったことが蘇ってくるからである。

「散ると見るのは凡夫の心 木の葉は大地に還るなり」

詠み人しらす

こう詠んだのは名も知れぬ一人の念仏者であろう。私たちの死に対するとらえ方とは根本的に異なっている。

凡夫である私たちは木の葉や花びらが散りゆくのを見て、そこはかかない哀れさと寂しさを、消えゆく命をイメージするものである。しかし作者は「木の葉は大地に還るなり」と詠んだ。大地は木の葉の命を支え、育んでくれた故郷のようなものとして捉え、そこへ還るといっているのであるか。なにかほっこりとして安らぎと悦びさえにしみ出てくるような世界へである。

私たちは亡くなると「浄土へ還られました」というのであるが、まさに大地と重なる世界がそこにはあるのだから。

「生死を超える世界」に生きたいと願いつつ、ただお念仏を申すばかりです。

春季永代経

三月二十日(水)

祝日

お斎あります
とき

亡き人を拝む私が

亡き人から拝まれている

午前十時 ～ 法話

住職

午後十三時～法話

若院

午後十四時終了

皆様のご参拝を心よりお持ち申し上げております。



今年の梅



今年は2週間以上早く咲き始め、2月下旬は見ごろを過ぎてしまうほどでした。

近年は境内の梅の木が枯れ始め悲惨な状況ですが、飛龍梅だけは弱ったものの何とか元気になっていてくれます。



思いのまま

令和6年能登半島地震災害救援金の勧募について

岐阜高山教区においてはこの度の震災における被災救援金の勧募がおこなわれています。

つきましては光受寺において、ご門徒の皆様より門徒会費から、3万円を救援金として勧募に応じていきたいと思っています。よろしくご理解のほどお願いを申し上げます。

また、勧募箱を本堂に設置しておきますので、ご参詣いただく機会がございましたら重ねてご協力いただければ幸いです。

なお勧募期間は三月三十一日(日)となっておりますので、期間終了後、まとめて岐阜教務所に届けたいと思っています。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

お寺サロン

2月15日（木）

13時30分～15時

「長良川豪雨水害を振り返る」をテーマに、岩田博さんからご協力いただいた資料をもとに研修をいたしました。



一九七六・九・十二日。あれから四十八年の月日が流れたことになりました。この日の参加者は二十数名でしたが、参加者のほとんどの方が、この辛い体験をされてきました。様々に当時や今の思いを語り合いつつ、改めて自然災害の恐ろしさを実感し、能登半島地震災害に心を痛められていました。

光受寺学習会 2月17日（土） 2時～3時半

『歎異抄』 第7章

「念仏者は無碍の一道なり」

意識

「念仏する人は、何ものにもさまたげられることのない、何ものにも怖れることのないひとすじの大道を歩むものです。」

たったこの一文を、たったこれだけの意識の意味をこの身の上に確かめ生きたために学びました。

瓜生崇さんの動画を観ながら、瓜生さんの身を通しての話しに、この言葉のもつ深さと重さを知りえることができました。

まさに、「眼にあててみる」そんな実感を抱くことができました。

「念仏」とは。「念仏をとなえることとは」初めて頷くことができました。

人間は生まれたその瞬間から、死は運命づけられています。

そして、四苦八苦の人生を生きなければならぬ現実と直面し、とりわけ「死」は遁れることのできない最も厳しい現実となります。しかし、だからこそ生きる意味を考え、仏法を聴き、後生の一大事を願う歩みをしていくのでしよう。

思い込んでいませんか？

お線香は立てない。

お線香は立てるものだと思っ
てましたがいらっしやる方が結構多いようです。しかし
浄土真宗では立てることはありません。

香（こう）は香（かお）り。

そもそも香の持つ意味は、その香りをかぐことによつて、清らかな浄土を思い、また香りが分け隔てなくゆきわたることから、如来のお慈悲の心に触れさせていただくものとして考えましょう。

したがって、何より香りが大切なのです。本来は常香盤という灰の入った容器に、木の板で凹みを作り、そこに抹香を入れ、端に火をつけて燃やしていたのです。そのならわしによって横に寝かせてお供えするのです。

本山などでの本堂では線香を使うことはまずありません。線香は抹香の代用品と考えたほうが良いと思えます。そして何よりも危ないのですから決して立てないようにしてください。使う場合は、香炉に入るだけの大きさに折って使ってください。煙より香りを大切に。

お知らせ

学習会（同朋会）三月十六日（土） 午後一時半～

『歎異抄』に学ぶ。 第8章 を予定しておりますが、都合により中止となりました。

お寺サロン

今月はお休みとなります。

また、改めてお知らせいたします。多くの方に参加いただけますように。

今月の掲示板

人間は死を抱いて

生まれ

死をかかえて

成長する

信國 淳